

職員による自己評価

A 環境面

事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされている。

B 児童への支援内容

自学自習スタイルの公文式療育を主に自己肯定感を促す。

C 関係機関との連携

地域子育て支援拠点に事業説明会を開いた。

D 保護者への説明責任・信頼関係

保護者からの子育ての悩み等に対する相談に丁寧に対応、必要な助言や支援に努めている

E 非常対応

定期的に避難訓練をしている。入所時にアレルギー体質について確認。(食物アレルギー含む)虐待防止の為、必ず指導員を複数配置し利用者が一人にならないように配慮。ミーティング時に研修や対応の確認をしている。

保護者による評価

A 環境面

教室のデザインが明るく過ごしやすい。

B 児童への支援内容

勉強への基礎からフォローしてもらえるので自信がついている。

C 事業所からの情報発信

ホームページや地域の情報誌でイベント等の情報を提供している。

D 非常対応

目の前が小学校で指定避難所の為、わかりやすい。非常災害発生時に備えて、緊急連絡先を入所時に複数提出。生徒が感情的になってしまうことがあった時など、指導員の先生と状況確認、保護者と連絡を密にして細かく対応している。

事業所内での分析

【共通点】

事業所としては、まず第一に子供たちが楽しんで通ってもらえるよう配慮している。実際に、子どもが通うのを楽しみにしているという保護者の方の声を聞いている。基礎からスライド式で無理なく学習を進められ、学習効果が見られるため保護者の方にも喜ばれている。

【相違点】

保護者の希望する学習科目に相違が出る事がある。
働いている保護者の方からの送迎希望がある点。

分析・検討してみて…

事業所の強み

公文教育研究会より正式な指導施設としてサポートを受け、公文式学習療育プログラムを指導している。

結果、子どもたちが学習する力を身につけ、自己肯定感を高め、自信をつけている。

同時に、家で勉強を教える保護者の方の相談にも応じ、悩みを聞くことで負担を減らし、細やかな面談をしている。

算数、英語の学習面では、遅れを感じ不安を抱えている保護者の方や子どもたちが、プログラムを進めていく中で安心してもらい、期待に添えてきている。

事業所の改善点

開業して一年になり、生徒数が急に増した為、安定に向けて運営システムの調整、対策を深めていく。

新しい職員の研修、プログラムの指導や内容の確認を徹底していく。

事業所の改善への取り組み

- ・指導員の技術チェック
- ・日常的に個々の利用者の方に応じた対応方法についてスタッフ一同深め情報共有する。
- ・利用者の方が、個別支援計画の目標達成に向けてよりスムーズに努力していけるよう、通所時に行なう行動ルーティンのマニュアル化
- ・明確な視覚化で工夫する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

一年間施設を運営して満足できる部分と足りていない部分が見えてきました。
この点をしっかり見極めて、運営していきたいと思います。

事業所名 ディヤーナ国際アフタースクール綱島
担当者 薄井 明子